

らい 来ぶらり 8

図書館 まるごと Q&A

—投書コーナーから—

書庫に入れて! 学生も書庫内に入れるようにしてください。カード目録があっても、現物を見る必要を感じます。盗難防止への管理をすることも、現在の図書館利用者数からいって、可能なのではないのでしょうか。

実際に見ることは必要だ! できるだけたくさん本に直接あたり、探索することは、探す人の問題意識がはっきりしていればいるほど、その意味も効果も深まるものだと思います。それは、見るべき特定の本をカード目録で検索することとは、やや目的が違います。ですから、カード目録があるから書庫に入る必要がない、というようには考えていません。

でも書庫は…… 図書館全体が狭く、特に管理的業務にあてられるスペースが少ないので、やむなく書庫を多目的に使っています。しかし、書庫内に入ることを意味を考えて整理に努め、昨年の4月から院生に利用してもらえるようになりました。ただ、書庫内は、「ここから先は立ち入らないでください」などの貼り紙をせざるを得ない状態なのです。

ちょっとした不注意が…… 「書棚の乱れ」のこともあります。記号どおりに並んでいるということは、特定の本を取り出す時の基本的な条件です。20万冊近い本の中で1冊の本が違った位置に入ってしまうと、これを探し出すことは偶然を待つしかありません。

盗難のこと これは、考えるたびに「盗難防止」と「自由に使える図書館」という願いの間でぶつかり合い、よい解決策がありません。盗難防止のためのいろいろな仕組みもありますが、そのどれ

もが利用者を泥濘扱いするようで、いまひとつスッキリしません。

結論は 以上のことを考え合わせると、書庫内を自由に利用できる人の範囲を、今すぐこれ以上に広げる勇気は湧いてこないというのが実情です。

開架図書室の増冊を 現在の開架図書室の本の数を大幅に増やしてほしい。図書館はブティックではないのだから、陳列方法にこだわることはありません。

書架は満ぱい 書庫に入ることを遠慮してもらっている以上、開架図書室の図書を増やす努力をすることは、当然です。しかし、書架はもう「満ぱい」以上です。今、たくさん本が館外に貸し出されていますが、もし仮りに、それらが全部いつべんに返却されたら、書架に収まりきれません。その意味では、開架図書室は、パンク寸前どころか、パンク寸後といった状態です。

このように絶対量がもう限界を超えている以上、図書館としては、新しい本が増えた分だけ古い本を書庫に移すことによって、新陳代謝をはかることくらいしかできないのです。

ブティックでないからこそ そのうえ、図書館は本を分類に従ってしかるべき書棚に正しく配架しなければなりません。したがって、各分類ごとに新着の本を収容するスペースを用意しておくことが必要です。図書館はブティックでないからこそ、本の並べ方にこだわります。

図書館増築にのぞみ 目下、図書館増改築への胎動があります。もし、これが実現すれば、開架図書室中心の図書館も夢ではありませんが……。

貸出し冊数が少ない 本の館外貸出し冊数の限度を5冊くらいにしていだけませんか。
(※現在3冊、論文貸出しと院生は6冊)

制限冊数の設定は、個人の便宜と共同利用の効率との兼ねあいから、決められることとなります。昨年から、夏休み・冬休みおよび春休みには、5冊借りられるようになりました(論文貸出しと院生は10冊)。ただ、残念ながら返却期限を守らない人がいて、回収にたいへん苦慮していることも事実です。この問題は、「いつ行っても見たい本がある」ということと、「家へ借り出してゆつくり見たい」ということの間で揺れています。

図書館でコーヒープレイクを ジュース
やコーヒーなどの自動販売機を置いてください。

秦々会に協力を求めたところ、快く応じてくれました。昨年9月より、屋上休憩室に設置されましたので、ぜひご利用を。ただし、屋上休憩室以外での飲食は遠慮してください。

図書館で弾いたセロ

僕の家には、埃をかぶった1台のセロがある。今は弾くこともないが、時々思い出しては弓に松ヤニを塗っている。ちょうど、冬のこの時期になると、短大図書館にいたころ、閉館後の暗い倉庫や教室でよく弾いていたのを思い出す。むろん、新図書館ができる前の、あの赤レンガの中にあつた小さな図書館の倉庫で、雑然としたガラクタの間に譜面を立てかけ、すきま風にあおられながらひとりて弾いていたものだ。それから数年がたち、発足間もないあるアマチュア・オケに誘われてその最初の練習に行ったのも、夕暮れ早い冬のことだった。渡されたのはドヴォルザークの8番の交響曲だった。初見ではなかったが、当日のセロパートが僕ひとりだったので、もうすっかり気が動転していた。第1楽章がアツと言う間に終わったのに、僕の譜面にはまだ数小節が残っていたのには本当に驚いてしまった。僕の目は虚ろで、全身これ冷汗でぐっしょりの体たらくであった。

以来、僕のセロは長い冬眠に入ることになるのだが、あの図書館で弾いたセロの記憶は、夢とか希望とかには無縁でいたいと思う僕の、ひそかな“憧れ”に、今でもつながっている。(運用係 中山高二)

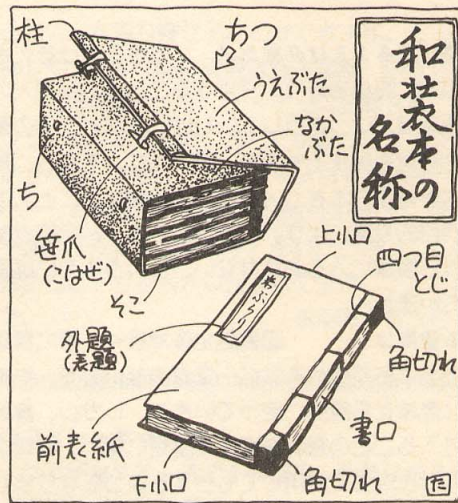
『図説日本の結び』(藤原覚一著 築地書館刊)を購入した。荷造りなどの実用から服装などの装飾まで、千余種の結びの技法を図で解説した「結び」の集大成。巻末索引は事典の役割も果たす。

開館時間を延長して! (※現在は平日
8:50~18:30 土曜 8:50~16:30)

何時に行っても図書館が使える、それは図書館員の夢でもあります。そして、図書館に繰り返し寄せられる要望です。しかし結論から言うと、現状ではちょっと無理なようです。

何といってもむずかしいのは、「人」の問題です。2交替制をとることが必要になりますが、この体制をとるには、現人員の3割くらい増員しなければ維持できません。

さらにもっと大きな問題は、開館時間を仮りに9時まで延長した場合、はたして何人が利用してくれるかということです。直接・間接の経費を考えると、少なくとも毎日30人は閉館ぎりぎりまでいてくれなくては……。でも、正直なところ、いまは、それだけの自信をもてないのです。



社会科学資料の宝庫

——法経図書室

東1号館1階、木の陰に隠れたゆるいスロープを上ると法経図書室です。1階に貸出しカウンター・カード室・事務室・閲覧室（座席数64席）があり、地下と2階が書庫になっています。

大学全体の蔵書数約66万冊のうち約18万冊が、法経図書室の所蔵であることからみても、すでに学部図書室というより中規模図書館といってもよいでしょう。最近の10年間に利用者も3倍以上に増えています。

蔵書構成は、研究用資料を中心に収集するため、洋書と洋雑誌が半数近くを占めています。法律・政治・経済・経営など社会科学全般にわたる資料はもちろんですが、法律の分野でコンピュータ犯罪の判例が出てくれば、コンピュータそのものも学ぶ必要が出てくるといったように、学問分野が錯綜してきていますので、資料も必然的に広い範囲で収集されるようになってきています。会社社史も、毎年、意図的に収集しています。特殊資料としては、約2400リールのマイクロフィルムから成る「日本国政府文書——外務省・内務省・法務

省——」（アメリカ合衆国押収文書）という大きいコレクションもあります。また「国勢調査」「有価証券報告書」の磁気テープも所蔵しています。年度によっては、特別予算で特徴ある大きな資料が購入されることがあります。1983年度には、アメリカ法の法令集、連邦判例集、そして統計資料を充実させました。

ただし、これらの資料は、ほとんどが閉架書庫に配架してありますので、院生以外の方には、目録室でカード検索をして窓口に請求していただく形をとっています。その煩わしさは親切な職員がお手伝いしてカバーします。

また、学生が希望する図書を直ちに購入するという制度もあります。

昨年11月には、開架への第1歩として、閲覧室に「開架図書コーナー」が新設されました。単行書600冊、雑誌16誌とささやかな規模で出発しましたが、「中身の濃い本を」と、先生方が授業と直結した本を選んでくださいました。この成果をふまえて、次のステップへ進んでいきたいと思っておりますので、太いご利用ください。

（法経図書室 千村英子^{ひで}）

大学図書館は「来ぶらり」2号で紹介した『伊勢物語』のほかにも、三条西家より譲り受けた本を貴重書として所蔵している。『枕草子』がそうである。

枕草子の数ある写本の中で、巻末に「枕草子は人ごとに持たれども、誠によき本は世にありがたき物也。これもさまざまではなけれど、能因が本ときけばむげにはあらじと思ひて書きうつしてさぶらうぞ。…」という文があるものを能因本（詳しくは伝能因所持本）とよぶ。「能因（平安中期の歌人で、後拾遺集・千載集・新古今集などに歌が載り、百人一首でも有名）が所持していた本と聞いたのでそう悪くはないと思って書き写した」という意味によるのだが、当館蔵『枕草子』はこの能因本にあたる。

昔の作品が現在に伝えられるのには、何度となく書写が繰り返され、そのたびに誤りが生じたり、

文や語が改変されたり、時には意図的に構成が変えられたりする。時代の変遷に伴って数種の系統の本が出てきて、所蔵者名や文中のことばなどによって各々命名されるが、枕草子にも4種の系統

の本があり、能因本はそのひとつである。

能因本『枕草子』



当館蔵『枕草子』は室町末期、三条西実隆^{さねたか}かその子公条^{きんぢょう}による書写だとされ、現存する能因本のうち最古の写本で、『校本枕冊子』（古典文庫刊）・『日本古典文学全集』（小学館刊）の底本になり、笠間書院から影印本も刊行されているものだ。

譲り受けた当時は、かなりの虫食いがあったようだが、今は見事に補修されている。由緒正しい貴重な資料であることはもちろん、補修の技術の見事さを見る上でも一見の価値がある書だ。

（和書係 王藤晶子^{あきこ}）

参考室あれこれ

「狼が来た、と言って人をだまし、本当に来た時には、誰も信じてくれなかったという話は、何に載っていますか？」 イソップに違いない。『イソップ寓話集』（岩波文庫）の目次を、学生と一緒に見ていく。天下周知の寓話だが、題名はわからない。「狼」「嘘」「羊飼」をキーワードとして、目次12頁、358の題名を見たが見当がつかない。同僚もみなイソップだという。イソップであるという確証を得たい。ことわざ辞典に引用されているかもしれないと考え、数冊あたってみた。最後に手にしたのが『ラルース世界ことわざ名言辞典』。項目「嘘」のところに、「嘘について得られることは一つだけ。

真実を言う時さえも信じてもらえぬことだ。—イソップ「寓話」〈悪ふざけをする羊飼い〉と出ている。イソップであることは判明した。だが、なぜ『イソップ寓話集』に収録されていないのであろう（この時、再度目次を見ればよかった）。『イソップ寓話—その伝承と変容』を借り出し、帰途、車中で読む。「狼が来た、とうそをつく子供」などはすでに明治30年代に教科書のうちに採り入れられたとのこと。主要引用書目に、『日本教科書大系 近代編』が挙げられている。これを見てみようか。だが、やはり『イソップ寓話集』が気になる。

翌朝、『イソップ寓話集』を見直す。課長が発見。318番目の「悪戯をする羊飼」であった。（参考係 久保田安子）

海を渡ってきたコピー

探している資料が国内では手に入らない時、外国からコピーを取り寄せることができます。そうした国際的な相互協力のために、BLLD（英国図書館貸出部）やIFLA（国際図書館協会連盟）の申込み用紙も用意されています。政治学科博士課程のBさんは、「ある期間中、スウェーデンの新聞3紙に掲載された、特定の事件に関する記事を見たい」と、カウンターを訪れました。国内に所蔵がなく、スウェーデンにコピーを依頼することになりましたが、所蔵館がわかりません。「The world of Learning」で主要な大学図書館を調べ、申込み先を決定。相手側にとってかなり手数のかかる依頼のため、受け付けてくれるかどうか、要求が正確に伝わるかどうか、一抹の不安がよぎります。それから待つこと40日。筒形の容器ふたつに収められて、ぴっくりするほど大型のコピーがどっさり送られて来ました。ちなみに、費用は118枚で531クローネ（約1万5千円）でした。（運用係 清水裕子）

お知らせ

○試験シーズン到来！

あけましておめでとうございます！ でも、いつまでもお屠蘇気分ではられません。学年末試験が迫って来ました。図書館が1年中でいちばんこみ合う季節。「手際よく」「ほかの人への思いやりをもって」利用しましょう。

○返却期限、忘れていませんか？

冬休みの長期貸出しを受けた本の返却期限は、1月16日（水）から21日（月）までの間です（借りた日によって異なります）。返却が遅れないよう、利用証の日付を確認しておいてください。

○コピー・サービス

コピーはコイン式で1枚20円。釣銭は出ますが、500円玉と紙幣は使用できません。両替は図書館では行っていませんのでご注意ください。また、「本学所蔵の図書・雑誌」以外のコピーはご遠慮願っています。拡大・縮小コピーを希望する方は、2階カウンターに申し込んでください。

○「教員著作目録稿—1983年—」ができました

本学の専任教員の著作・編集・編纂・翻訳などの業績を、単行本に限って収録しました。欲しい方は2階カウンターまで、どうぞ。

来ぶらり No.8 1985年1月1日発行

発行責任者：波多野里望 編集委員：種田昭平 清水裕子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎(986)0221